



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

平成30年 野球殿堂入り表彰式 ～特別表彰～ 館長 廣瀬 信一



左より 斉藤 惇理事長、瀧 克己氏、八田 英二会長

特別表彰委員会選出の故・瀧 正男さんの野球殿堂入り表彰式を、8月15日(水)に第100回全国高等学校野球選手権記念大会が開かれている甲子園球場で行いました。大会11日目、第1試合(下関国際対創志学園)と第2試合(興南対木更津総合)の間に、日本高等学校野球連盟が毎年終戦記念日に行っている「育成功労賞」の表彰式に続いて行われました。

瀧さんは、中京商業の選手として、1937年夏、38年春の甲子園大会で優勝。戦後は、同校指導者として、54年夏、56年春に優勝、選手・指導者の両方で、春夏の甲子園大会で優勝を成し遂げました。56年から中京大学野球部長・監督となり、愛知大学野球リーグ戦で、28回優勝。70年には、全日本大学野球選手権大会で、東海勢として初めて優勝し、日本一となりました。指導者の育成にも力を注ぎ、アマチュア野球界の発展に貢献されました。

表彰式当日の天気予報は晴れで、連日の猛暑が心配されていましたが、予報は外れ、朝から雨が降り出しました。一時は雨足が強くなりましたが、表彰式に合わせるかのように、直前で急に弱まり、無事に表彰式を行うことができました。球場は記念大会に相応しく、満員のスタンドで、大観衆が見守る中、バックネット前で行われました。スクリーンには瀧さんを紹介する映像が流れ、場内アナウンスで瀧さんの業績を紹介する中、ご子息・克己さんがグラウンドに立ちました。はじめに、野球殿堂博物館・斉藤 惇理事長より記念のレプリカ、そして日本高等学校野球連盟・八田 英二会長より花束が贈られました。次に、克己さんより「平和な社会が続き、高校野球がますます発展することを祈ってます」、「父が亡くなる前に『お世話になった方々に、お礼を伝えてくれ』と申していました。今日ここで、そのお礼を伝えられたことが一番うれしい」と、関係者の方々へ感謝の言葉を述べられました。最後に記念撮影を行い、滞りなく表彰式を終えることができました。

2018年 夏休み「野球で自由研究！」のご報告

野球をテーマに自由研究を行う小学生をサポートする【野球で自由研究！】を行いました。また、その一環として、7つのイベントを実施しました。

野球で自由研究！

会期 ▶ 2018年7月1日(日)～8月31日(金)

会場 ▶ 図書室、イベントホール

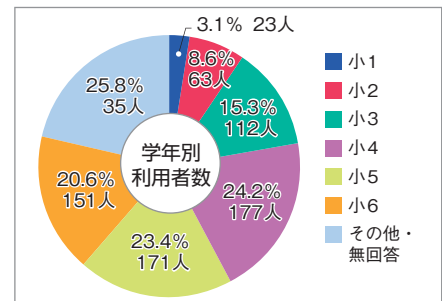
「野球で自由研究！」では、自由研究の材料になりそうな資料をまとめた「野球で自由研究！ファイル」を作成したほか、野球の歴史や野球場、高校野球などに関連した書籍や雑誌を手に取りやすい場所に並べ、自由研究に取り組みやすい環境を作りました。また、硬式や軟式のボールといった様々な種類のボールや、金属バット（硬式用）、木製バット（オリックス・吉田 正尚選手使用）を実際に触り、違いを体感できるようにしました。

【自由研究のテーマ一覧】

テーマ/学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	その他	無回答	計
野球について	4	8	16	21	23	18	3	7	100
歴史	4	9	15	30	46	39	4	11	158
野球用具	8	30	56	93	67	74	1	10	339
変化球	1	1	3	8	6	8	1	2	30
野球場	0	1	5	6	4	3	0	0	19
プロ野球	1	3	8	14	18	3	0	1	48
選手	0	3	7	5	5	0	0	0	20
高校野球	2	3	7	11	16	12	0	4	55
記録(つげ方・調べ方)	1	1	2	4	2	2	0	0	12
ルール	0	0	2	2	1	0	0	0	5
野球盤	0	0	3	1	1	0	0	0	5
その他	1	4	9	10	5	9	2	3	43
合計(複数選択可)	22	63	133	205	194	168	11	38	834
回答者数	23	63	112	177	171	151	10	25	732



図書室のようす



今年、「野球で自由研究！」を利用した小学生は、732人（前年比84人増）となり、人数を集計し始めてから最高の数字となりました。

子どもたちが選んだテーマを見ると、野球用具が最も多く、半数近くの小学生がボール、グラブ、バット、ユニホームなど、身近な用具をテーマに選んでいることが分かりました。他には歴史、高校野球、変化球という結果となりました。特に、高校野球をテーマとした小学生が多かったのは、同時期に特別展「高校野球 100回目の夏」を開催していたことが大きかったと考えられます。

ミニミニ実験コーナー

期間 ▶ 7月21日(土)～8月26日(日)（イベントがある日は除く）

時間 ▶ 14:00、15:00（各回30分程度） 会場 ▶ イベントホール

当館スタッフが自由研究のテーマになりそうな話題を紹介する「ミニミニ実験コーナー」を実施しました。多くの子どもたちが参加し、ミニミニ実験をもとに自由研究のテーマを決めて、取りくむ姿が多く見られました。また、ソフトバンクの柳田 悠岐選手、DeNAの筒香 嘉智選手のバットを、実際に子どもたちと一緒に計測した際には、子どもたちは真剣に目盛りを読んでいました。

また、小学生限定で白手袋をしてグラブやバットに触れる体験も、大変貴重なものだったと思います。

14:00～

①変化球のひみつ

風船や紙筒を使って、回転して変化するボールの基本的な原理を説明。

②グラブのひみつ

明治時代（レプリカ）、昭和初期（レプリカ）、現在のプロモデルのグラブを紹介し、昔と今のグラブを比較。

15:00～

①ボールのひみつ

ボールの規則を説明し、硬式ボールと軟式ボールのできるまでを紹介。

②バットのひみつ

バットの規則を説明し、柳田選手、筒香選手のバットの長さや太さ、重さを計測する。



バットのひみつ

「第3回 野球で自由研究！コンテスト」開催

今年は10月7日まで作品の受付をし、92件の応募がありました。11月24日(土)から最優秀賞、優秀賞をはじめ1次審査を通過した作品を館内で展示する予定です。また、ホームページ上でも最優秀賞、優秀賞の作品を公開します。なお、次号のニュースレターで審査結果と表彰式についてご報告いたします。

野球が100倍楽しくなる 野球の記録をつけてみよう！

- ▶ 日時：7月22日(日)、8月1日(水)、8月6日(月) いずれの日も10:30～、14:00～
▶ 会場：イベントホール ▶ 講師：元NPB セ・リーグ記録部長 石井 重夫 氏

この企画は例年大人気のため、今年も事前予約制で実施しました。イベントに参加した子どもたちは、石井氏から、一般的に使われる「早稲田式」のスコアの簡単なポジション表記（投手や一塁手など）、投球記号（ストライクやボールなど）、プレー記号（アウトカウント、三振や四球など）について教わりました。子どもたちは実際に試合の映像を見ながら、一球一球真剣に記録用紙に記入していました。

プロ野球の元記録員から直接スコアの書き方を教えてもらい、映像を見ながら一緒に記録を書き込むといった体験は、普段とは一味違った野球の楽しみ方だったのではないのでしょうか。参加者からは、「分かりやすかった」「楽しかった」「野球の見方が変わるきっかけとなった」といった声が聞かれました。



講師の石井氏

夏休み審判学校！

▶ 協力：一般社団法人 日本野球機構

- ▶ 日時：7月27日(金)、8月5日(日) 両日とも14:00～ ▶ 会場：イベントホール
▶ 講師：審判長 友寄 正人 氏 シニアディレクター 兼 審判技術指導員 東 利夫 氏
審判技術指導員 山崎 夏生 氏、渡田 均 氏、平林 岳 氏、柴村 孝康 氏（※東氏と渡田氏は7月27日のみ。）

今年は実技のスペースを広く設けるため、当日整理券配布制としました。

はじめに、講師の皆さんから、野球の歴史の話や、現在の審判員の仕事や用具、リクエスト制度の話がありました。休憩後、球審、塁審の実演をしていただいた後、全員でパフォーマンスやコールの実技を行いました。

7月27日には、当日の東京ドームの試合で審判を務める審判員の方々に、サプライズでご登場いただきました。「レポーズ」で知られる敷田 直人審判員らによるコールの実演は、大いに盛り上がりました。

参加者からは、「ジェスチャーを学べて楽しかった」「審判の大変さが分かった」といった声が聞かれました。



実技のようす

ボールはなぜ曲がる？

- ▶ 日時：8月12日(日) 14:00～ ▶ 会場：イベントホール ▶ 講師：中京大学 スポーツ科学部 桜井 伸二 教授

昨年に引き続き、多くの子どもたちが疑問に思う「ボールはなぜ曲がる？」をテーマに、中京大学の桜井先生に話をさせていただきました。

先生の自己紹介に続き、いろいろなボールを落とすときの様子や回転をかけたときの様子を、映像とともに説明していただきました。

次に、ボールの運動を考えると大切な「重力と空気からの力だけを考える」「抗力と揚力」「作用・反作用の法則」について、それぞれ宇宙空間での実験、飛行機のつばさ、野球のボールといった具体例を、図を交えてお話ししていただきました。

また、プラスチックカップにゴムひもを巻いて回転をかけて飛ばす実験は、子どもたちでもできる実験であり、わかりやすいものでした。

参加者からは、「説明が分かりやすかった」「話を聞いて実践したくなった」といった声が聞かれました。



講師の桜井氏

夏休み親子クラブ製作教室

協力：ミズノ株式会社

日時：8月20日(月) 14:00～ ▶会場：イベントホール

今年は、230通もの応募があり、抽選で選ばれた15組30名の親子が参加しました。

当日はミズノ社スタッフの山田 晋平氏、堀内 昇一氏のご指導のもと、約2時間半かけて、親指と人差し指の間のウェブの取り付けなど、クラブの形状を作る、ひも通しの作業を行いました。

自由研究用にと写真を撮ったり、スタッフに積極的に質問したりしながら作業をする親子が多く、各組とも力を合わせて、オリジナルのクラブを完成させました。



会場ようす

バット製作実演

協力：ミズノ株式会社

日時：8月21日(火)、8月22日(水) 11:00～、13:30～、15:00～ ▶会場：イベントホール

本年も渡邊 孝博クラフトマンに、実演を行っていただきました。各回とも開始前から席が埋まるほどの盛況ぶり、メモやカメラを手にした子どもたちが熱心に実演の様子を見入っていました。

渡邊クラフトマンには、原料の木材やバット製作の工程についての話、バット製作の実演、紙やすりかけ体験(各回2～4名の小学生)を実施していただきました。質疑応答コーナーでは、自由研究を目的とした子どもたちや、野球ファンの方から沢山の専門的な質問があがり、1つ1つ丁寧に回答いただきました。また、終了後には渡邊クラフトマンの手がけたプロの使用しているバットを、ご見学された方々が手に取って、重量や手触りなどを体感していただき、大変好評でした。



紙やすりかけ体験

クラブ先生の夏休み特別授業

協力：ミズノ株式会社

日時：8月23日(木) 13:30～、15:00～ ▶会場：イベントホール

昨年に引き続き、ミズノ株式会社のご協力による「クラブ先生の夏休み特別授業」を開催、本年は遠山 義宏氏に講師をお願いし、クラブのほかにスパイクについてもお話いただきました。遠山氏には、クラブやスパイクの手入れの仕方や製造工程等を、分かりやすく説明して下さいました。各回とも好評で、多くのお子さんが熱心にメモを取り、真剣に耳を傾けていました。質問コーナーでは、クラブの作り方や材質等の専門的な質問から、クラブを柔らかくする方法など、より実用的な質問まで様々なものがありました。自由研究を行う子どもたちのクラブに対する探究心の深さを感じました。



講師の遠山氏

企画展「日米野球110年」

会期：2018年10月13日(土)～11月18日(日)

主催：公益財団法人 野球殿堂博物館 ▶会場：野球殿堂博物館 企画展示室



1908年に「リーチ・オール・アメリカン」が来日。これがプロ選手が来日した初の「日米野球」で、11月22日の早大との初戦にて、日本初といわれる大隈 重信早大総長の始球式が行われました。それから110年となる2018年、4年ぶりに開催される「日米野球」にあわせ、「日米野球」の長きにわたる歴史と、その歴史を彩ったスター選手たちを紹介する企画展を開催します。

当博物館がこれまでに収集してきた、歴代の来日メジャーリーガーのユニホームやバット、クラブなどの用具に加え、ポスターや入場券、サインボールなど様々な資料を展示します。

また、前回の日米野球では侍ジャパンが大リーグ選抜と対戦、第3戦で侍ジャパンが4投手の継投でノーヒットで勝利するなど、3勝2敗で1990年以来史上2度目の勝ち越しに成功しました。このノーヒットのウィニングボールを始め、日本チームのユニホームなどの関連資料も展示します。

【次回企画展】「野球報道写真展2018」 ▶会期：2018年12月15日(土)～2019年3月3日(日) 予定

本企画展は2015年にスタートし、今回4回目の開催となります。東京写真記者協会加盟各社のカメラマンが撮影した、2018年シーズンの野球界のハイライトを収めたベストショット約70点を展示し、今シーズンの野球界の出来事を振り返ります。

殿堂入りの人々を語る(61)

父 瀧 正男 の思い出

瀧 克己 (2018年野球殿堂入り 瀧 正男氏長男)



瀧 正男氏

父、瀧 正男は大正10年(1921)9月8日、農家の6人兄弟の第4子、次男として生まれ、小学校で野球と出会い、亡くなる90歳まで長く野球に携わることができました。

中京商業への進学では、故梅村 清明先生のお誘いと、父の家族への説得も先生から頂き、長兄、父親の理解が得られての進学でした。さらに、中京商業から名古屋高等商業学校(現名古屋大学経済学部)への進学も梅村先生の勧めと、この時も先生が家族への説得もして頂けての進学だった、と聞いています。野球に長く携われる契機を作って下さった故梅村 清明先生と両親や兄弟には生涯強い“恩”を感じていました。

私の父の印象は、“野球が大好き”以外では、①努力家 ②強運 ③気配り ④集まりが好き というものです。貧しい農家に生まれた父にとって、上の学校への進学は大変な努力が有ってこそ可能になったと思います。野球の戦績では、中京商業の選手時代に甲子園で2回優勝し、高校の指導者時代では甲子園で2回、国体で2回優勝しています。さらに、中京大学での指導者時代には「全日本大学野球選手権」で1回優勝しています。これも、「良い選手、良いスタッフに出会った」と言っていました。戦争経験では、東南アジアの激戦地を転戦し、捕虜にはなりましたが、生還できました。戦争体験から、「戦争は絶対にいけない」と、言ってもいました。帰国後、肺結核を患い、右肺を全摘出しましたが、90歳の死の直前まで元気に野球を楽しんでいました。「運は努力に付いてくる」とも言っていました。自らの人生で得られた経験からの言葉と思います。教え子が甲子園にチームを連れてくる事を喜び、多くの教え子の皆さんに囲まれて、生涯野球を楽しんでいました。

80歳を超したころから、「出会った皆さんのおかげで幸せな人生だった」と良く言っていました。晩年は、「お父さんに若しもの事があつたら、皆さんに感謝していたことを伝えて欲しい!」とも言っていました。

しかし、父は家では野球の話をおろそかにしたので、父のお世話になった方々が、私にはよく分かりませんでした。交換していた賀状の多さ、父の葬儀に大変多くの方に見送って頂いたことで、多くの方にご厚情を戴いていたことは感じていましたが、今回の「野球殿堂入り」で、多くの交友関係を改めて知ることが出来ました。

小学生の時は、甲子園のテレビ中継で、何度か父のユニフォーム姿を見たことはありますが、生のユニフォーム姿を見たのは1回だけです。「お父さんの最後の試合だから、皆で見に来い」と言われ、中京大学の野球部長・監督の最後の試合に瑞穂球場に家族で見に行きました。『瀧監督 長い間ご苦労様でした!』という大きな横断幕の前で学生に胴上げされている姿が、最初で最後の父の生のユニフォーム姿でした。

父とのキャッチボールは、小学校3年くらいの時に父にキャッチボールを誘われてした1回だけです。中京商業で運動能力の高い選手を多く見ているので、私が野球選手に不向き、と判断したと思います。「瀧さんは『運動能力が高くない克己が野球をやると苦労するし、また、克己の指導者に苦労や迷惑をかけることも嫌なので野球をやらせなかった』と言っていた」と私が大人になって、父の知人の方から聞きました。

父の言葉通り、瀧 正男は、皆様のお蔭で幸せな人生を送れました。家族も皆様に感謝しています。

もの
知ってほしいこんな資料 (89)

2014 日米野球第3戦ノーヒッターウイニングボール

今年、4年ぶりとなる日米野球が開催されますが、前回、2014年の日米野球では、侍ジャパンが史上初となる快挙を達成しました。この年の侍ジャパンは、小久保 裕紀監督のもと、2017年のWBCでの世界一奪回へ向けた貴重な強化の場と日米野球を位置づけ、臨みました。

第1戦、第2戦と連勝した侍ジャパンは、東京ドームで行われた第3戦の先発のマウンドに則本 昂大投手(楽天)が上がります。則本投手は5回をパーフェクトに抑えると、その後は西 勇輝投手(オリックス)、牧田 和久投手(西武)、西野 勇士投手(ロッテ)の投手リレーで、日本としては日米野球で史上初となるノーヒットノーランを達成。



出したランナーは四死球による4人のみ、奪った三振は13個という好投でした。当時の自己最速となる155kmをマークし、2014年シーズン、打率.314のカノ選手(マリナーズ)、22本塁打のロンゴリア選手(レイズ)、打率.319でナ・リーグ首位打者のモーノー選手(ロッキーズ)ら強打者を相手に6三振を奪った則本投手は「人生最高の投球ができた」と語っています。

打っては、坂本 勇人選手(巨人)と中田 翔選手(日本ハム)が本塁打を打ち、4-0と快勝。この年の日米野球は5戦を行い、侍ジャパンは3勝2敗で1990年以来史上2度目の勝ち越しを達成しました。

小久保監督と4投手のサインの入ったこの試合のウイニングボールは、10月13日(土)~11月18日(日)に開催の企画展「日米野球110年」で当日のスコア(複製・NPB提供)とともに公開しています。ぜひご覧ください。

学芸員 井上 裕太



こんにちは図書室です



読賣野球年鑑

今回ご紹介するのは、アマチュアとプロの1年間の出来事が1冊でわかる『読賣野球年鑑』です。

当館では『読賣野球年鑑』の1953年版と54年版を所蔵しています。53年版は江馬 盛編集発行、昭和28年3月20日 読売新聞社発行、404ページ、大きさ26cmで、発刊のことばには「あるべくして無かったのが、日本の野球年鑑である。あっても1年こっきりだったり、それでは意味がない。本社は2年間準備してここに『読賣野球年鑑』を作りあげた。」とあります。また、プロもアマも一緒になった日本の野球年鑑として、自社意識をさけた企画で、年鑑という堅苦しさをなくし、楽しめるものにした、ともあります。同時に今まで誤って伝えられていた記録を整備するにあたり、記録の権威である広瀬 謙三氏(1973年野球殿堂入り)が力を注いだとあり、野球界をまとめたこの年鑑を、最高のものにして発行したいという意気込みが伝わってきます。



『読賣野球年鑑』
左 1953年版 右 1954年版
発行 読売新聞社

目次を見ても、プロ野球、アメリカの野球、ノンプロ野球、学生野球、高校野球、軟式野球と少年野球、附録となっています。それぞれ主要大会の結果をはじめ、歴史、過去の成績なども掲載されており、いつ始まったか、どんなチームが優勝しているかなどを1冊で調べられるのは、大変便利です。また附録にある日米野球交流史、比較対照・日米野球発達略史などは、読み物としても面白いと思います。

『読賣野球年鑑』は、『読売新聞80年史』(昭和30年12月1日 読売新聞社発行)の「本社の出版事業」の章にも53年版と54年版の記載しかありませんので、この2年間しか発行されていないと思われます。2年間でも、編集者、出版社の理想が伝わってくるような『読賣野球年鑑』を、ご覧になってみて下さい。

司書 小川 晶子

野球殿堂博物館 トピックス (2018年8月~10月)

球団デー開催



8月は3球団の球団デーを開催し(阪神・8/7~9、ロッテ・8/20、21、広島・8/28~30)、2018シーズンの全球団の日程を終了しました。



9/2 特別展「高校野球 100回目の夏」開催記念トークイベント

「私の見た名勝負・思い出のプレー」を開催!

講師 林 清一氏 (元審判員、日本リトルシニア中学硬式野球協会 理事長)
鬼嶋 一司氏 (元NHK 高校野球解説者、元慶大監督)
工藤 三郎氏 (NHKグローバルメディアサービス アナウンサー)

高校野球の夏の選手権大会100回を記念し、審判員、解説者、アナウンサーとそれぞれの立場で、高校野球を間近で見てこられたお三方をお迎えし、トークイベントを開催しました。



左から 林 清一氏、鬼嶋 一司氏、工藤 三郎氏

林氏が球審としてサヨナラとなるボークを宣告した、夏の第80回大会、豊田大谷対宇部商の延長15回に及ぶ激闘や、鬼嶋氏が解説者として実際に現場に立ち会った、夏の第94回大会、大阪桐蔭対光星学院での藤浪 晋太郎投手(大阪桐蔭、現阪神)のピッチングなど、エピソードを交えて高校野球の思い出を盛り沢山に語っていただきました。

9/11 広野 功氏来館

当館では広野 功氏(元中日他)より、同氏のプロ野球史上唯一の記録である2度の「逆転満塁サヨナラ本塁打」関係の資料をご寄贈いただいています。この夏、プロ野球の歴史のコーナーにて2本のホームランバットと、1度目の際のホームランボールを、NPB提供の公式スコア(複製)とともに展示しました。

博物館からのお知らせ

▶ご案内

●平成30年野球殿堂入り記念

「松井 秀喜氏 レプリカレリーフ」限定販売のご案内

販売価格:150,000円(税込)

作品外寸:約200×170mm 楕 外寸:約237×205mm

総重量:約1.7kg

素材:レリーフ ブロンズ(茶系色・凸文字は白色)
楕 クルミ材(茶塗り)

(裏面立てかけ用足付き・専用ケース入り)

平成30年野球殿堂入りされました松井 秀喜氏が授与されたレリーフを、20/47に縮小し、完全再現しました。

〈付属品〉

・証明書(ご注文者様のお名前入り)

・松井秀喜氏直筆サイン入り写真

(レリーフのモチーフとなったもの)

※シリアルナンバー入り(レリーフ背面、ケース前面、証明書)

この商品は100個限定の受注生産となります。

なおご注文受付は、10月下旬頃を予定しています。

また商品発送は、ご注文後約3ヶ月後の2019年1月より順次発送いたします。

受付方法については、当館ホームページまたは当館に直接お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。

お問い合わせください。



▶理事会

・10月17日(水)に都内ホテルにて、理事会を開催致しました。

議題 1. 諸規程の一部改定について

2. 会議日程等について

報告 1. リニューアル検討委員会からの報告

2. 特別表彰委員会委員並びに候補者選考委員会委員の交代について

3. 表彰委員会規程改正小委員会からの報告

4. 理事長及び業務執行理事の職務の執行状況について

5. その他 以上

場 所 東京ドーム21ゲート右

開館時間 3月1日~9月30日 AM10時~PM6時

10月1日~2月末日 AM10時~PM5時

(入館は閉館の30分前まで)

※開館時間に変更になる場合がありますので、当館ホームページでご確認下さい。

入館料 大人 600円(500円) ()は

高・大学生 400円 } 20名以上の団体

小・中学生 200円(150円)

65歳以上 400円

休館日 月曜日

(祝日、東京ドームでの野球開催日、春・夏休み中は開館)

年末・年始(12月29日~1月1日)

11月・12月・1月の休館日

11月 5日・12日・19日・26日

12月 3日・10日・17日・29日・30日・31日

1月 1日・7日・15日・21日・28日(1月15日は、臨時休館)

11月・12月・1月の休館日

11月 5日・12日・19日・26日

12月 3日・10日・17日・29日・30日・31日

1月 1日・7日・15日・21日・28日(1月15日は、臨時休館)

11月・12月・1月の休館日

11月 5日・12日・19日・26日

12月 3日・10日・17日・29日・30日・31日

1月 1日・7日・15日・21日・28日(1月15日は、臨時休館)

11月・12月・1月の休館日

11月 5日・12日・19日・26日

12月 3日・10日・17日・29日・30日・31日

野球殿堂博物館 Newsletter 第28巻 第3号

2018年10月25日発行(年4回発行)

編集・発行 公益財団法人 野球殿堂博物館

(旧・財団法人 野球体育博物館)

〒112-0004 東京都文京区後楽1-3-61

Tel 03(3811)3600 Fax 03(3811)5369

http://www.baseball-museum.or.jp/



The Baseball Hall of Fame and Museum

公益財団法人 野球殿堂博物館

リレー随筆(72)

野球の中での『奇跡』という言葉

競技者表彰委員会幹事

なかむら

中邨 雄二 (朝日放送テレビ)

『奇跡の〇〇!』……一般的な感覚での『奇跡』とは、『常識的にはありえないような業績。あるいは人智・人力を超えたありえない(良い)出来事、成果。』のことを指すのでしょうか。

実は私にも、後に『奇跡の…』と呼ばれるシーンに出くわした経験があります。それは「1996年夏の甲子園決勝戦、松山商業対熊本工業の一戦の中で生まれた『奇跡のバックホーム!』を、テレビ実況したという経験です。この年は、ベスト4にすべて公立高校が残る!という、今から思えばそれだけでも十分に“奇跡的な”大会となったのですが、その年の決勝戦、それが松山商 vs 熊工のゲームでした。このゲームの10回に『奇跡のバックホーム』が生まれるのですが、思い返せば、この試合自体“奇跡的な出来事の連続”でした。9回表を終わって3対2と、松山商1点リード。そして9回裏、熊工は2死無走者と追い詰められます。しかしそこから1年生の沢村 幸明君が、まさに起死回生の同点ホームランを叩き込み、試合は延長戦に。もしランナーが一人出たあと、この一発が生まれていたら、それこそ『1年生による、“奇跡の”逆転サヨナラ優勝決定ホームラン!』として、それはそれで高校野球史に残る名シーンとなったことでしょう。私の頭の奥に、「もしそんな事になったら、なんと表現した? なんと喋っていた?」の思いが沸き立ち始めたのは言うまでもありません。しかし現実には同点止まり。延長戦に入ります。10回表は松山商業に得点なし。そして10回の裏、熊本工業は1死満塁と、今度はサヨナラの大チャンス。ここで守る松山商・沢田 勝彦監督はライトを新田 浩貴君から「矢野勝嗣くん」に替えます。打席に熊工3番本多 大介君。彼は、クリーンナップの実力通りライトへ大きな飛球。犠牲フライには十分な距離…と、誰の目にも見えたことでしょう。

さがる矢野君。その時の実況はざっとこんな感じでした。『熊本工業ワンアウト満塁。夢の初優勝まであと一点。バッターボックスに三番・本多。ピッチャー投げましたっ!…打ったあー! ライトへ大きなフライ! ライト下がって…ボールを捕った! 3塁ランナー、優勝に向けてのタッチアップ!…ああ!! ライトからすごい球が返ってきたあ〜!! タッチは? ……アーーアウトオォォ!!!』そして『やったあ!! やったあ!! ライト矢野、みんなに祝福されてこの笑顔お〜!!』これこそが、私の目の前で起こった『奇跡のバックホーム!』の一部始終でした。しかしこのとき、私は自分の実況の中に『奇跡』という言葉を入れ込むことが出来ませんでした。

それには理由があるのです。

今は徒弟制もなく全然厳しくない世界となったスポーツアナ。ですが、昔(25年近く前)は、『先輩の教え』は、重いものとして胸に刻み込むことが常でした。

「植草 貞夫」という、名アナウンサーにして大先輩のアナが居られました。めったに指導などして下さる方ではなかったのですが、ある時その先輩から『“奇跡” などという言葉は、アナウンサーは軽々しく使ってはならぬ。乱用は言葉の本当の値打ちを損ねてしまう。』という金言を頂きました。最初で最後のたった一度の野球中継出張の時だったと思います。

そして、数年後にあの『奇跡のバックホームシーン』です。あのプレーで試合が終わったわけではない(延長戦が、まだ続く)状況下で、私は「奇跡の…」と、一言を挟む勇気が出ませんでした。あのプレーで勝ったのなら言えていたのですが、結局延長の末熊本工業がサヨナラ勝ちしてしまえば、あのバックホームプレーは埋没してしまっていたはず。私は、一瞬そのことが頭をよぎり、先輩の言葉を思い出して、逡巡してしまいました。しかし現実には、奇跡のバックホームで気力をつないだ松山商業が11回表に3点を入れて、それでゲームは決着しました。そして全てが終わり、翌日のスポーツ紙を見て…後悔しました。『言っときゃよかったな! これぞ奇跡…の瞬間だったんだから』と。

それから、折に触れてあのシーンがテレビなどで流される度に私の胸は掻きむしられてきました。後悔が蘇るのです。

しかし今から10年位前のある時、テレビの特番で、その植草先輩と御一緒する機会がありました。テーマは「高校野球」。『奇跡のバックホームシーン』も出ます。その時思い切って私は先輩に心のもやもやを話しました。エピソードとして。「…だから、奇跡という言葉が使えなかったのだけれども、今となってはやはり勇気を持って使っといたら良かったです。」と。するとそれまで口数の少なかった植草先輩が、ひとこと。『言えなかった……それでいいと思う。やはり、軽々しく派手な言葉を使いたがるのは、アナウンサーとしてどうかと思う。僕は、その判断は正しいと思うね…素晴らしい判断だと思うよ』。涙が出ました。それと同時に、今まで心の中でこぼぼっていた何かがすうーっと溶けて行き、「奇跡のバックホーム中継にかかわれた自分を、そして“奇跡という言葉のためらった自分”を誇らしく思える」様になりました。

今にして思えば、再び頂いた「植草先輩の教え」…それこそは、私にとって『奇跡の金言』として、ずっと大事にしたいもののなのです。